

## 協働に関する指針 修正対応表

## 1. 第7回審議会（10/14）での修正意見

修正意見	対応結果
<全体内容>	
協働に関心がない市民も除外されず、市民として公共の利益が受けられるように。	十分に留意します。
この指針は安城市として発行するのか。施策の実現性はあるのか。	安城市の協働の指針として市が発行責任をもちます。各施策は、現状段階であり、今後の協働推進条例や推進計画の検討に合わせ、具体性をもたせていきます。
<第1章「協働」に関する基本的内容>	
P 1 サラダの表現は良い、プラスでイメージ図があると良い。	サラダの絵を入れる予定です。
「協働」の定義を用いて文章中で表現すると、意味が重複する箇所があり不整合な部分がある。	定義の説明文を修正しました。
P 8 領域図の真中「双方対等」の表現が不適切では。	「双方主体」に変更しました。
協働は市民と行政だけではないので、領域図を他の場合でも使えるように変更しては。	市民活動団体と行政に重点を置く説明に変更しました。
<第2章「協働」を推進するために>	
P 1 3 課題の表現方法に工夫が欲しい。	断定的な表現の言い回しを修正しました。
P 1 7 施策5の基金の整備の項目は、もう少し表記を細分して短期の目標設定を設けては。	事業を3つに細分し目標時期も見直しました。

## 2. 第22回、第23回あんねっと（10/13、11/10）での修正意見

修正意見	対応結果
<全体内容>	
用語や様式の統一。「行政」は「市」に統一、「企業」は「事業者」に統一など。	統一しました。
重要なところは太字又はアンダーラインとしては。	太字・アンダーラインを追加しました。
新しい公共や認定NPOの条件緩和など、新しい流れも入れてもらえると良い。	「はじめに」で追記しました。
公益と私益の違いが分かっていない人が多い。まずはその違いを説明する必要がある。	指針への記載は省略しますが、今後進めていくうえで議論していきたいと思います。
関わった人たちの名前が入っていたら、やる気が出る。作成日を入れる。	名札の写真またはあんねっと検討風景写真などを掲載することを考えています。作成日は表紙に追記しました。
読み手は誰なのか。各章の扱い、構成内容が分かりにくい。あんねっとの紹介や策定までの流れが記載されている方が分かりやすいのでは。	「はじめに」で追記しました。
安城市は町内会との連携がしっかりしていますが、町内会の位置づけはどうなりますか。	P 2 (2) 安城市の協働によるまちづくり、P 4 3 第4章で町内会との連携を追記しました。

特に分科会の時に話し合っていた、協働を進めていった未来の姿とかが、ハッキリあるともっといいと思います。	「協働に関する指針 その先へ」で将来にも言及しました。
＜第1章「協働」に関する基本的内容＞	
P 1 「古くは・・・」の表現は気になります。「かつては・・・」ぐらいが良い。	「かつては」にしました。
P 1 「自助・共助・公助」の説明箇所が、市の他の計画で使われている内容と異なっている。	一般的に使われている表現に修正しました。
P 5 協働の効果が図示されていることはとてもよいが、「ひとりではできないことを、助け合うことができる」の意味が、私にはわかりにくかった。「ひとりではできないことも、助け合うことで出来るようになる」と同じですか？	「ひとりではできないことも助け合うことで達成できる。」としました。
街路樹、公園愛護会はどの部分にも該当するのか（補助か委託のいずれか） 安城市国際交流協会はどの事業例に該当するのか	事業調査で報告されていないので、担当へ確認しておきます。
P 9 事業例に実際の税負担額を載せたらどうか。	予算額の記載は、額の比較をする基準がなく、記載により誤解を招くおそれがあるのでこのままとします。
P 11以降 実際の税負担額を載せたらどうか。	予算額の記載は、額の比較をする基準がなく、記載により誤解を招くおそれがあるのでこのままとします。
＜第2章「協働」を推進するために＞	
P 14 具体的施策で誰が主体的に進めていくのか機関名が入るとよりわかりやすい。主語が必要。	基本的に施策として市が実施する前提ですが、現時点では具体的内容まで決まっていないので、この表現のままとします。
P 15 出前講座は誰がどこで。	「市民（活動団体）」が「市民」に、という形が望ましいと考えます。
P 16 施策4の目標時期は事業の実施期間か取り組み開始時期か。また育成事業が中期では遅くないか。	「事業開始目標時期」と修正しました。時期の記載は目標ですので、早めの実施できるよう努めます。
P 17 あんねっと基金の運用開始が5年後はかなり先であるが。	事業を3つに細分し目標時期も見直しました。
P 20 表彰制度について、市民の手作りのなもので、意見交換、交流の場に是非して欲しいので、評価します。場作りに努めますではなく。	文末表現を修正しました。
これまで議論していない内容ですが、「ふれあい補償制度」（ボランティア保険）についても、市民活動や協働事業に必要であると思います。指針に入れられるよう見直しができれば。	P 29 ふれあい補償制度について追記しました。
P 24 推進体制のイメージダイアグラムには町内会の位置づけは難しいのでしょうか。	町内会との協働については第四章の「協働の指針 その先へ」で表現することにしました。
＜第3章 持続可能な協働推進のしくみ＞	
第3章の内容があんねっとの意見中心なので章名を修正したほうが内容と一致するのでは。	章名と項目名を修正しました。
P 26 コーディネーターは市の主催する研修のみと考えているのか。	表現方法を修正しました。
P 26 コーディネーターも、スペシャリストもあるが、各専門を活かすことなども良いのかも。	P 34 <あんねっとでは>の欄に追記しました。
P 27 新しい若い世代の人を育成しなければならぬ→賛成ですが、市民活動を活性化させるのは、働く40～50代の社会参加が大事では。	P 34 <あんねっとでは>の欄に追記しました。

<p>P 2 8 市民活動センターをひと、情報、金のハブ機能としてとありますが、<u>活動していて一番欲しいのはバーチャルオフィスのようなインキュベーションスペースではないのでしょうか。この辺をフォローしてくれるともっと活動しやすいと思う。</u></p>	<p>P 3 6 &lt;あんねっとでは&gt;の欄に追記しました。</p>
<p>P 3 0 お金のなかに<u>税金のことも入れてくださると良いかも。委託金の中で税金のことも共通理解が必要では。</u></p>	<p>「税制」については、今後、継続して検討していく必要があります。</p>
<p>P 3 0～3 1 <u>基金が寄附のみでまかなえない時に、（持ちこたえない時に）どうするの？</u></p>	<p>今後、継続して検討していく必要があります。</p>
<p>P 3 2 あんねっと基金運用のイメージ案はととてもよくまとめられています。<u>ステップ1の①調査</u>はどんなことか。</p>	<p>「信用調査」の意味。</p>
<p>P 3 3 「<u>新しいIT技術を適切に入れる</u>」とあるが、<u>具体案があると良い。</u></p>	<p>「ICT」などを追記しました。</p>